

学校だより



くるだ

令和6年1月5日第10号
富士宮市立黒田小学校
富士宮市星山 1030-2
電話 0544-26-2670

学校教育目標

自分事として学び、共に活動する子

本年もよろしくお願い致します

震度7を観測した元日の能登半島地震、2日の旅客機と海上保安庁の航空機による衝突事故、3日の北九州市小倉北区の大規模火災等、衝撃的な災害が続けて発生しました。

学校では、避難訓練、総合的な学習（月の輪）における防災学習、命に関する学習等の在り方を見直し、子供たちの安全・安心を第一に考えて教育活動を行っていきたいと思います。

3学期は短い期間ですが、ご理解とご協力をよろしくお願い致します。

「チッ」って言う人がいない学校へ

ー共生社会の実現を目指してー

校長 米津 英郎

新年早々、このタイトルを見て首を傾げた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。決してふざけているわけではありません。**短い言葉**で保護者や地域の皆様に私が考えていることを伝えたいと苦慮した結果、このタイトルになりました。

さて、子供たちが大人になって活躍する社会はどんな社会でしょうか。きっと今よりも少子高齢化が進み**高齢者の多くいる社会**になっていると予想されます。

国立社会保障・人口問題研究は、令和5年4月26日に以下の発表を行いました。「**総人口は50年後に現在の7割に減少し、65歳以上人口はおおよそ4割を占める。**」この数字は大都市も加味した日本全体の平均ですので、**地方については人口減少と高齢化率の割合が驚くべき数字**になっていることが容易に考えられます。さらに、これまで十分に社会参加ができる環境にはなかった障がいのある方や、外国にルーツのある方、LGBTQの方などの**少数派の方々が積極的に参加できる社会**になっているとも考えられます。

このような多様な在り方を相互に認め合える共生社会を実現するためには、タイトルに示したように「チッ」って言う人がいない状況になっている必要があります。つまり、自分と異なる考えや行動、文化を受け止める、多数派が少数派の意見を取り入れる、悩んでいる人の気持ちを理解するなどの資質・能力を誰もが身に付けていることが前提となるのです。

まずは、「みんな」「うちら」「おれら」「わたしたち」「地域の方」という言葉の中に、高齢者や障がいのある方、外国にルーツのある方、異なる文化の方、LGBTQの方などの**少数派の方々の意見を取り入れて考えようとする子供**を育てていきます。ご理解と御協力をよろしくお願い致します。